

参加報告

「第8回アジアEST地域フォーラム (スリランカ)」



はじめに

アジアEST地域フォーラムは、アジア地域における環境的に持続可能な交通(EST)の実現を目指して、日本の環境省と国際連合地域開発センター(UNCRD)が共同で設立した、政府ハイレベルによる政策対話会合です。

国際連合地域開発センター(UNCRD)、スリランカ民主社会主義共和国環境・再生エネルギー省及び運輸省、日本国環境省、クリーン・エア・アジアは共催で、平成26年11月19日～21日に、アジアEST地域フォーラム第8回会合をスリランカ民主社会主義共和国・コロンボにて開催しました。

会合では、アジア21カ国の代表等が参加し、ESTに関する政策等について議論が行われ、アジアにおける低炭素交通促進に向けたコロンボ宣言が採択されました。

エコモ財団からは、交通環境対策部 熊井課長代理が参加し、全体会合8(アジアにおける生産性の向上とエネルギー安全保障のための高度物流システム)において、日本の物流分野の取組を発表しました。



開会式風景



発表風景(全体会合8)

1. 会議概要

- 日 程:平成26年11月19日～21日
- 場 所:スリランカ民主社会主義共和国
コロンボ/バンダラナイケ記念国際会議場
- 主 催:UNCRD、スリランカ環境・再生エネルギー省、
スリランカ運輸省、日本国環境省、クリーン・エア・アジア
- 参加者:アジア諸国21カ国の政府高官(環境省及び交通関係省庁等)
(ASEAN9カ国、SACEP8カ国、日本、韓国、モンゴル、ロシア)
交通と環境分野に関する学識経験者等の専門家、
国際機関関係者 他

※「BAQ2014 (Better Air Quality 2014)」と統合開催されました。



バンダラナイケ
記念国際会議場
外観



会議場内パネル発表の様子

2. 主な会議の成果

アジア地域21ヶ国の代表等が参加し、ESTに関する政策、先進事例等の共有が図られました。

2010年開催の第5回フォーラムにて採択された「バンコク宣言2020」に示された目標の実現に向けて、より一層ESTを推進することについて確認されました。

議論を踏まえ、アジアにおける低炭素交通促進に向けたコロンボ宣言が採択されました。

「アジアの市長による特別セッション」が開かれ、2007年4月に採択された地方自治体の取組にかかる「京都宣言」について、アジアにおける環境的に持続可能な交通を推進することについての関心を新たにし、その取組を強固にするための追記が行われました。

3. プログラム

開催された会合のプログラムは以下の通りでした。

【第1日目 2014年11月19日】

開 会 式	
全体会合 1	バリ-ビジョン 3 ゼロ実現に向けて —— 住みやすく持続可能なアジア社会を目指して
全体会合 2	アジアにおけるきれいな大気と持続可能な交通のための次世代ソリューションとしての e-モビリティ
全体会合 3	社会サービスへのアクセシビリティの強化(向上) —— 新興アジアのコミュニティにおける重要なニーズ
全体会合 4	道路の安全と事故の防止 —— 国家生産性に不可欠な要素として

【第2日目 2014年11月20日】

全体会合 5	コロンボ地域交通マスタープラン(Colombo Metropolitan Transport Master Plan) 交通部門の低炭素技術移転及びインフラ開発の国内及び国際的な取組み
全体会合 6	アジアにおけるレジリエントでスマートな住みやすい都市の実現 —— ESTの役割 (アジア市長会議)
分 科 会	バンコク宣言 2020・目標の進捗報告
全体会合 7	次世代交通インフラのための民間セクターの資金調達

【第3日目 2014年11月21日】

全体会合 8	アジアにおける生産性の向上とエネルギー安全保障のための高度物流システム
全体会合 9	鉄道の拡大
国別報告とBAQ2014分科会からの報告	
コロンボ宣言及び議長サマリーの採択	
閉 会 式	

4. 全体会合 8

全体会合8では、「アジアにおける生産性の向上とエネルギー安全保障のための高度物流システム」というテーマで発表と討議がありました。

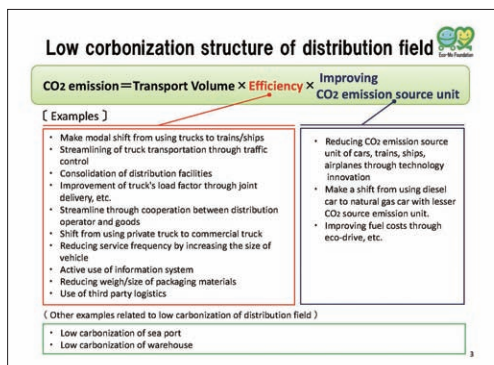
当初、スリランカ運輸省大臣のKumara Welgama氏が議長を務める予定でしたが、当日都合がつかず、代理でスリランカ運輸省部長(計画)のJ.M.Thilakarathna Manda氏が代理で議長を務めました。

冒頭、Karlsruhe技術研究所のWerner Rothengatter氏とSmart Freight CentreのSophie Punte氏がアジアにおける生産性の向上とエネルギー安全保障のための高度物流システムについて発表し、続いて日本の取組事例をエコモ財団交通環境対策部の熊井課長代理が発表しました。

日本の取組事例を理解いただくため、最初に運輸部門の温室効果ガス排出量の推移を説明し、特に物流分野では減少傾向であることを説明したあと、物流分野の対策の構造を「CO₂排出量＝輸送量×輸送効率向上×原単位改善」という式で整理し、輸送効率の向上と原単位の改善について対策例を説明しました。

これらの対策を推し進めるための日本政府の施策として、グリーン物流パートナーシップ会議や物流効率化法、省エネ法などを紹介したあと、エコモ財団が国や業界団体と連携して進めているグリーン経営認証制度やエコドライブの普及について、必要性や効果を含めて説明しました。

エコモ財団の発表後、アジアにおけるグリーン物流促進のためのロードマップを議論するため、国際連合地域開発センター(UNCRD)のC.R.C. Mohanty氏、アジア開発銀行(ADB)のNaeeda Crishna氏、アセアンドイツ技術協力(GIZ)のRoland Haas氏、グリーンエアアジア(CAA)のRobert Earley氏、国連アジア太平洋経済社会委員会(UN ESCAP)のMadan Regmi氏からも発表がありました。



スライド(物流対策の整理)



スライド(グリーン経営認証)

おわりに

会議の合間にスリランカの交通事情を視察しましたが、2009年に内戦が終了し、交通も含め、社会基盤の整備を進めている最中です。

公共交通が不足し、コロンボ市内は慢性的な渋滞が発生しており、軌道系の公共交通機関の整備が必要と感じました。

コロンボ広域都市交通マスタープランではモノレールの新設やBRTの導入、既存の鉄道システムの近代化を計画していますが、それ以前に道路交通の基本的な整備(信号機が一部しかない、交通マナーを殆ど守らない等)が必要なのではないかと感じました。

高速道路は日本のODAで空港からコロンボ市街まで整備されていますが、さらに整備した上でネットワーク化が必要です。そのためには、引き続き日本からスリランカへの支援が重要となります。アジアの交通環境問題について、今回の出張をきっかけとして、これから考えていきたいと思えます。

参考資料

【環境省】 第8回アジアEST地域フォーラムの結果について

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=18949>

【UNCRD】 Eighth Regional EST Forum in Asia

<http://www.uncrd.or.jp/index.php?page=view&nr=116&type=13&menu=198>



コロンボ市内の交通状況